

令和3年度 卒業時満足度調査 結果と分析 -カリキュラム編成・運用・DPについて-

1. 調査方法の分析

1) 調査期間

令和4年3月9日～3月18日

2) 対象

令和4年3月卒業見込 4年生 110名（2018年度入学生）

3) 方法

令和2年度より Google forms を活用した調査方法を採用した。

なお、今年度よりカリキュラム運用、DPに関する質問項目を変更した。

4) 結果

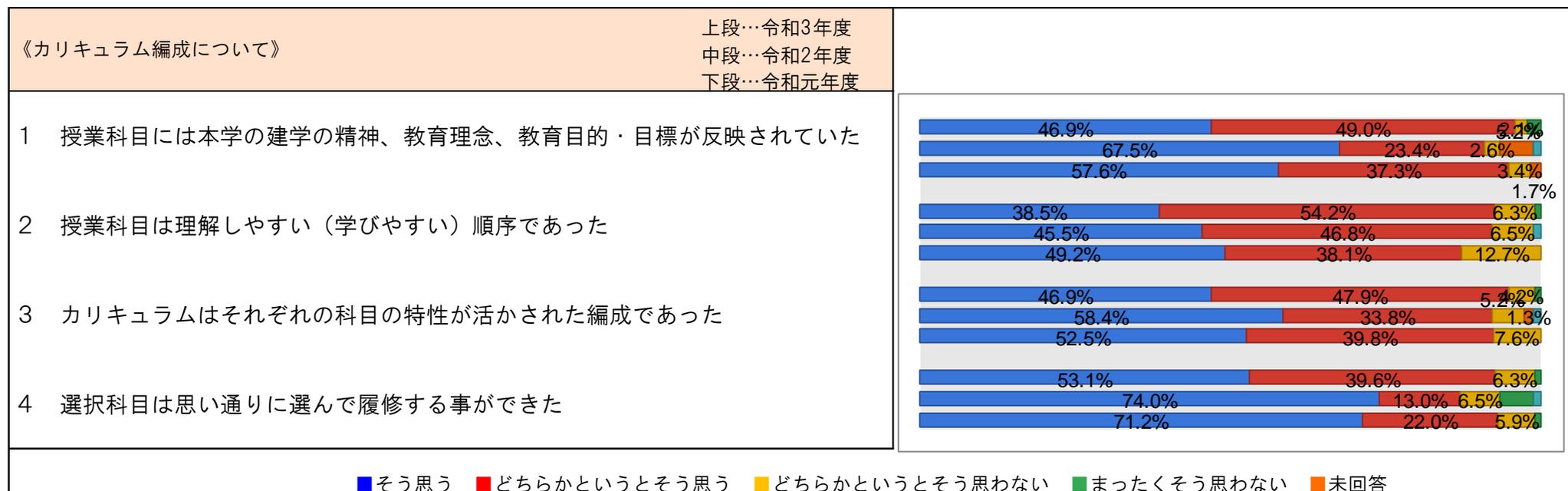
回収率 85.5%（回答数：94部）

【考察】

調査方法を Google forms に変更後、回収率が70%台と低迷していたが、令和3年度は4年生への調査依頼の場に学務課に加え教務委員も加わり、調査協力を依頼した。また、リマインドメールを送ることにより、回収率を昨年度(78.6%)より上げることができた。

2. 結果概要と分析

(1) カリキュラム編成について



(以下、自由記述)

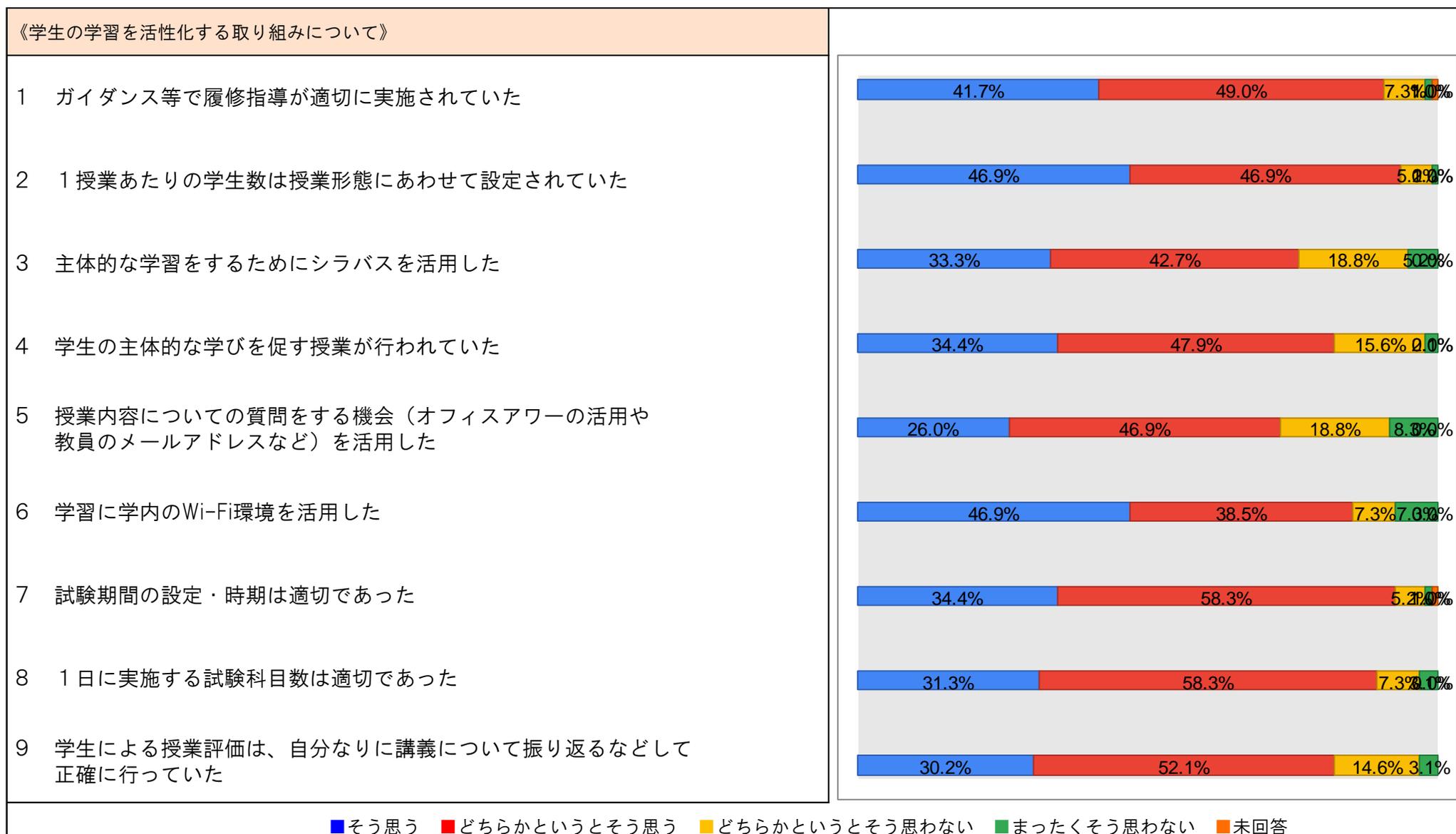
- ・ やりやすかった
- ・ 説明通りに行われていてよかった
- ・ 1、2年生に座学が詰め込まれすぎている気がする。
- ・ 解剖学を学年の後半にも学ばせてほしい
- ・ 実習や国家試験の頃にはほとんど授業内容を覚えていなかった"
- ・ 4年生に行う科目が多かったため、国試対策が遅くなってしまったと思う。
- ・ 就職活動と実習が同時期で、就職活動に集中できなかつたり、コロナで県外への就職を断念せざるを得なかったため、実習をもう少し早めに終わらせるようなカリキュラムにしてほしいと思う。
- ・ 解剖生理を幅広く1年次に取り組みことができ、2～4年次に活かせることができたが、一気に専門分野の試験があった時期は大変だった。

【考察】

過去三年間の調査結果を見ると、「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた割合は年々増加傾向にあり80%以上であった。教育理念、教育目標等が科目に反映され、学びやすい編成・順序性であったと考える。2014年度開始カリキュラムと比較して2018年度開始カリキュラムは総授業時間数が減っているが、一部

の学生から過密性についての意見がみられた。

(2) カリキュラムの運用、学生の学習を活性化する取り組みについて



(以下、学生の学びを活性化する取り組みに関する自由記述)

- ・ 解剖生理の重要性を低学年でより理解させ、学習に力を入れさせる必要がある。
- ・ WiFi が不安定で使いにくかった
- ・ 個人でもっと考えることのできるような取り組みが必要であると思う。
- ・ 事前・事後課題について明記されているのがよかった。

【考察】

令和3年度から項目名を「(2)カリキュラムの運用、学生の学習を活性化する取り組みについて」に変更した。また質問の各項目においても講義室の広さ、冷暖房を含めた教室環境の適切さに関する項目については削除した。新たに追加した項目は1～6とし、カリキュラムの運用に関連するガイダンス等での履修指導、主体的な学習を前提としたシラバスの活用や学びを促す授業の実施に関する質問項目を新たに追加した。質問項目7、8、9は昨年度と同様とした。

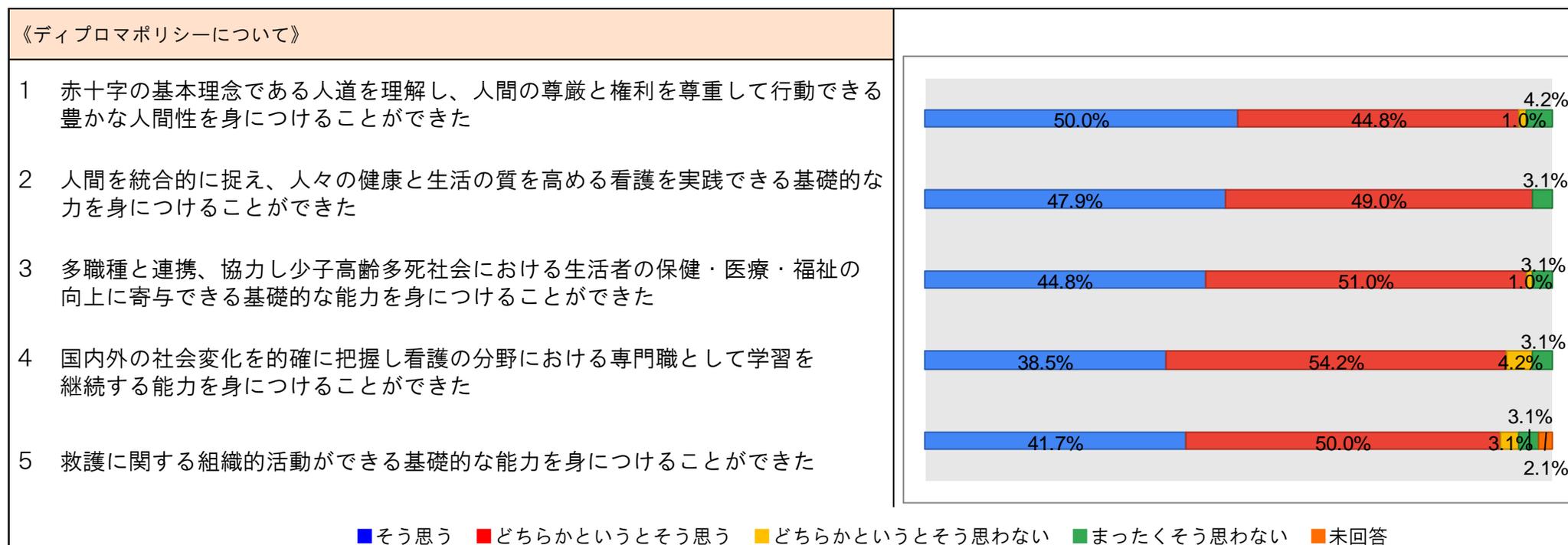
質問項目を変更したことから昨年度以前との比較はできない質問もあるが、「1. ガイダンス等で履修指導が適切に実施されていた」「2. 1授業あたりの学生数は授業形態にあわせて設定されていた」「4. 学生の主体的な学びを促す授業が行われていた」「6. 学習に学内のWi-Fi環境を活用した」「7. 試験期間の設定・時期は適切であった」「8. 1日に実施する試験科目数は適切であった」「9. 学生による授業評価は自分なりに講義について振り返るなどして正確に行っていた」といった設問は「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた割合はいずれも80%を超えていた。一方で、「3. 主体的な学習をするためにシラバスを活用した」「5. 授業内容についての質問をする機会（オフィスアワーの活用や教員のメールアドレスなど）を活用した」は「どちらかというと思わない」「まったくそう思わない」を合わせた割合はそれぞれ24.0%、27.7%であり、シラバスの活用について周知する必要がある。さらに、自由記述でも学生から「事前・事後課題について明記されているのが良かった」という意見があることから、シラバスの活用について前期ガイダンス等で各学年の学生への周知を強化することが必要である。また、現在は遠隔授業により教員への質問の方法が、オフィスアワー、メールアドレスに限らず多様化していることから、引き続き学生が質問できる機会の確保に努めていく必要がある。

昨年度以前との比較可能な項目（「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた割合）

	R3	R2	R1
7. 試験期間の設定・時期は適切であった	92.7%	88.3%	87.3%
8. 1日に実施する試験科目数は適切であった	89.6%	70.2%	82.2%
9. 学生による授業評価は、自分なりに講義について振り返るなどして正確に行っていた	82.3%	94.8%	83.1%

試験期間の設定や時期、科目数については適切な状況にあると考えられる。授業評価については、回収率が低迷している状況からも実施している学生が少ない可能性があり、今後授業評価実施の呼びかけを強化していく必要がある。また、「9. 学生による授業評価は、自分なりに講義について振り返るなどして正確に行っていた」という項目については次年度から「9. 講義を振り返り、授業評価を行っていた」に変更する。

(3) DP について



【考察】

調査対象の学生は入学時から現行の5つのDPに基づくカリキュラムで学んでいたため、今年度から現行DPを用いた質問項目とした。いずれの項目も「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた割合は90%を超えており、DPを達成したと感じている学生の割合は高いことがわかる。